

思いはひとつ

2015年1月22日発行

長野リハビリ友の会事務局

〒380-0814 長野市西鶴賀町1570 長野中央病院内

TEL・FAX 026-234-3280

<http://members.stvnet.home.ne.jp/naganotomonokai/>

'15年明けましておめでとうございます

宮川理事長・中野先生と柳澤事務局長と山本農園長に新年の挨拶をしてもらいます。

宮川理事長



新年明けましておめでとうございます
本年もよろしくおねがいします

昨年友の会の行事、皆様のご協力
で無事終えることができました。ありが
とございました。ただ残念なことは諸
行事に参加者が少なくなっていること
です。会のモットー「障害があっても仲
間と一緒に楽しくやろう」です。その
中で「書道クラブ」が発足したことは
明るいニュースです。

年末の選挙では私達の声を発言してく
れる議員が大幅に増えたことは明る
く嬉しい出来事です。法人税が下げら
れ国民には苦難を押し付ける政府。社
会問題にも目を向け私達ができること
があれば、微力ですが行動しようでは
ありませんか！

今年も一生懸命頑張ります。会員の皆
様に置かれましては御体を大切にしな
がら共に友の会を盛り立てて頂くこと
をお願いしまして年頭のあいさつとさ
せて頂きます。

理事長 宮川 貞子

柳澤事務局長



あけましておめでとうございます。

昨年は天災に左右される一年になりま
したが、皆さんと年間行事を無事実施
することができ、良かったなあと胸をな
でおろしております。

昨年は新しいサークルが増えたり、友
の会の活動報告を病院祭でおこなった
り、つるがで年末物資の販売を行ったり
と、活発な活動が出来たと感じており
ます。

今年度も皆様のご協力を得て、積極
的な友の会の活動が出来事を願って
おります。

年間行事への提案やご意見など、事
務局に寄せていただけましたらあり
がたいです。

今年度もよろしくお願ひいたします。

事務局長 柳澤 純子



新年あけましておめでとうございます。
今年もがんばりますよろしくお願い
します。

昨年を思い返すと、まず友の会の活
動が例年通り着々と行われ大きな成
果を上げました。今年は、県友の会連
絡会の作品展が長野市で開かれるの
を筆頭に会員の活動の場が大きく待
ち構えています。皆さんの奮闘を期
待します。我々職員も、友の会と一
緒に更に一步前に進めるよう頑張
っていきます。共にがんばりましょ
う。

昨年、個人的にはいろいろありまし
たが、夏に椎間板ヘルニアになり坐
骨神経痛に悩まされました。年末
には、軽い肺炎になるという経験
をしました。熱を出したり咳をしたり
している患者さんを見ると、アー
苦しいだろうなとすごい共感を持
って見るようになりました。いつ
までも若くないぞと周りから言わ
れ、そうだなと思います。

この次は何が来るだろう、自転車
で転んで骨折なんてのは最悪のシ
ナリオ。健康は大事、何より健康
で今年一年頑張れるように注意し
たいと思います。皆さんも健康に
ご注意ください。頼りない担当医
ですが、ご相談いただければ中央
病院の優秀な医師団をご紹介します
。共に、元気元気の友の会で行
きましょう。

正月休み、いつものようにだらだ
らと過ごしましたが。見たテレビ
の中で『巨大災害』というBSの番
組があり注目しました。その中で
、地球温暖化に伴い海水温が深く
まで暖かくなっていることが分か
ったようです。台風は気圧がさが
り、勢いがついてくると海水をか
き回し深層の冷たい水を表層に
持ってきて冷やされることにより
勢いが弱まる構造があったが、
深層まで水温が高いためかき回
されても冷たい水がないためど
んどん台風は暖められ『巨大台
風』になるというのです。フィ
リピンでは昨年11月風速90m
の想像できないような強風、と
10mに及ぶ津波のような高波が
襲って7000人の人が亡くなり
ました。どんどんひどくなる温
暖化に伴って、必然的に起こる
災害。それに対する備えこそ人
類が考えなくてはならないこと
ではないかと思いました。

昨年を思い返すと、総選挙での共
産党の21議席への前進が喜ぶべ
き出来事として思い浮かびます。
しかるに安倍首相は、多数を占
めたことで国民の支持を得たと
ばかり「戦後の大改革」を「抵抗
」があってもやっていると宣言
をしました。自民党の比例票は有
権者比では17%にしか過ぎない
状況なのにです。『大改革のメ
ニュー』の中には集団的自衛権
の強行、憲法9条改悪、消費税
10%、格差をすすめるアベノ
ミクスの強行、医療介護の改悪
、沖縄米軍新基地の建設、原発
再稼働、TPPなど国民が反対す
るメニューばかりです。ふんど
しをぎゅーっとしめなおして悪
政に対処し、本来あるべき政治
の姿に持っていきたいと思いま
す。

皆さん今年もよろしくお願ひ
します。

2015/1/1 中野 友貴



1月の理事会で話し合ったこと

会議次第

経過報告 事務局

- まんまるについて
 - ・広田さんに記事にいただいた。
 - 元気づくり支援金事業説明会について(飯塚さん)
 - ・県庁へ説明会へ行ってきた。資料貰ってきた。・条件がなかなか厳しい。
 - 作品展について
 - サンアップル確保できました。
- 6/27(土) - 28(日)
- ・5Fの研修ホールが使用できたら、そこでやってみたらどうか。・サンアップルの方が公的施設でもあり、条件も良く、便利→サンアップルで決定。
- 農園について(別紙資料)
 - ・何を作るか、収穫祭は夏 or 秋どちらにするか。→来年度はじゃがいも+そばで進めてみる。収穫祭は夏になる(7月下旬ごろか)。大根は休み。

議題

- 年末物資販売について→反省と課題
 - 順調に販売できたが、事務局負担多い(つるが販売：商品の運搬)○事前予約をやって良かった○来年はもう少し望年会で売れるよう、告知した方が良い○個数：昆布は良いが、来年わかめは10~20個増やしてもよいか?○来年度も昆布・わかめで販売していく。
- 元気づくり支援金の応募について
 - ・説明会で、貰える金額は最低30万~貰えるのは1回のみ・単独事業で30万を超える不足がないと貰えない・面接は資料をもとにヒアリング形式。
 - ・資料を集め、本当に申請できそうか検討してみる方向で。
- 「思いはひとつ」引き継ぎについて
 - ・中島さん→泉さんへの引き継ぎは4月号から。
- 今後の理事会の運営について
 - ・来年度の理事会は第1土曜日に変更(3月から)。時間はいままで通り。
 - ・副理事長：中島さん→児玉さんにやっていただく。
- 総会対策
 - 2/28(土)10時~2時
 - ながの中央介護センターつるが
 - 総会人事 総合司会(事務局 広瀬) / 議長(市村理事) / 議事録署名(中島さん、泉さん)



山本農園長

あけましておめでとうございます
昨年は、台風の影響で夏の収穫祭が中止になるなど前代未聞の出来事が起こりました。

また、秋の収穫祭も雨天のため職員中心の収穫作業となり、振り返ってみると天候に翻弄された一年でした。

限られた日程の中で、天候や農作物の成長に合わせた作業ができないもどかしさはありませんでしたが、収穫を喜ぶ会員様の姿が見られて良かったと思えました。

年々、リハビリ農園の参加者が減ってきています。農作業の楽しさや収穫の喜びを参加されたことのない方々に伝え、仲間を増やしてリハビリ農園を盛り上げていきましょう。本年もよろしく願いいたします。

新年明けましておめでとうございます

顧問	監事	理事	副理事長	理事長
矢澤	田中	横尾	樋口	西澤
武夫	秀夫	裕治	靖志	弘子
				義政
				昇尚
				泉玉
				中島
				飯山
				塚人
				素光
				英子
				宮川
				貞子

年頭に当たって リハビリ友の会の将来のために 中島編集長

友の会の理事・監事・事務局員を募集します。自薦・他薦を問いません。若い方で自薦してくれる人が出てくれば、リハビリ友の会の将来は明るいと思います。

リハビリ友の会の将来のために、一肌脱ぐと言ってくれる若い会員が、出て来てくれることを切に願うところです。また、あの人がいいという方を知っている人は、是非推薦してください。

理事・監事・事務局員は毎月の編集会議・理事会(編集会議の後理事会です)と発送作業(第4か第5木曜日)に出るのが仕事です。どちらも病院5階会議室で行います。

会員の世代が変わっても、「NPO法人長野リハビリ友の会」は「脳卒中者友の会長野県連絡会」と一緒に永久に続いていくことを祈ります。我々の孫の時代、そのまた孫の時代へと続いて行けば、良いと思います。

その頃には、脳卒中という病気がなくなっていれば、勿論、その方がいいですが、どうでしょう。



◇ 会員並びに家族の方々、会員の知人の方々に昆布とワカメの販売に協力して頂き、ありがとうございました。

信濃に伝わる昔話の紹介 (72)

園里小学校

須坂市豊丘

旧園里学校(1993年4月1日須坂市指定有形文化財指定)は豊丘字新田にあり、明治16(1883)年に上高井郡園里村(後の豊丘村)立園里学校の校舎として建てられました。

この校舎は明治10年代まで役所や学校などに多く使われた、擬洋風建築と呼ばれる、日本建築を基礎として西洋建築のデザインを採用しています。

主屋の外観は、外壁が土蔵造で屋根は葺瓦葺(現代の民家などで見られる葺き方)と和風ですが、正面の玄関ポーチには、ギリシャ建築を思わせる円柱が使われ、外壁の四隅の角には漆喰を盛り上げて黒く塗り、石積みを模した装飾がされるなど随所に擬洋風が見られます。



旧園里学校は明治6(1873)年に小山村の止善学校の支校として灰野村地蔵堂に開校しました。

止善学校の止善の意味について

☆建学の精神「止善の心」大学之道、明德在民。在新民。在止於至善。「止善の心」について分かりやすく言うと)全ての人は、天から授かった立派な“徳”(人間的な魅力)をもつ

ている。だから、常にその最善を尽くしつつ、それを磨いていきましょう。更に、自分の周りの人に思いやりの心をもってその姿勢を及ぼしていきましょう。

そして、理想に向かって共に歩み続けるその姿勢を常に心に持ち続けましょう。(大学・経一章)

灰野村は園里村そして豊丘村へと改称し、最後に須坂市と合併しました。

明治12(1879)年に競進学校と改称され、明治15(1882)年に園里村立園里学校と改名されました。

競進学校(競進について分かりやすく言うと)=互いに競って勉学に進む

昭和4(1929)年の校舎新築移転以降、豊丘村役場や市福祉企業センターなどに利用された後、平成4(1992)年、

復元修復工事により明治時代当時の姿に復元されました。

現在、2階を地域の博物館施設として、明治から昭和初期にかけての学用品や机などを展示し、1階は児童クラブとして利用しています。

多くの人々の生活に関わってきた旧園里学校ですが、須坂の教育の様子を伝える重要な役割を、今も担っています。

今年度で編集長・県連絡会事務局長を止めさせていただきます

中島 素紹

耳が遠くなり、補聴器を付けても、理事会や編集会議に支障があるようになりました。今、副理事長と「思いはひとつ」の編集長を拝命していますが、このまま役員をしていますが、他の役員さんや友の会担当の職員さんにも迷惑がかかります。

「思いはひとつ」の編集・発行は、1996年3月号をその頃事務局長の中沢職員に頼まれ、ワープロで試作し発行しました。5月号から、4月から事務局長の安達さん下、発行してきました。それから事務局長職員は何度も変わりましたが、3月で19年間担当してきたこととなります。

脳卒中者友の会長野県連絡会の事務局長も1999年諏訪

への友の会の一泊旅行の時に中信・南信の3患者会(夢拓会・健歩会・松本協立病院の患者会準備会)で連絡会が出来た一回目の総会の時から拝命してきました。

こちらも後任者に受け継いでもらいます。先月のテレビ会議で属している他の会から承諾してもらいました。

会員の皆さんや役員の皆さん・中野先生はじめNPO法人長野リハビリ友の会担当歴代事務局職員さんに大変お世話になりました。

来年度は無理かもしれませんが、2016年からは一会員として、サークル活動は【元気太鼓】をはじめ『将棋倶楽部』、〈歌う会ひまわり〉での活動は続けていきたいと思っています。



(これは2005.5月号の一面です)ます。

☆ 総会と新年会が2月28日(土)10時~午後2時 ながの中央介護センターつるがデイサービス室オアシスで開催されます。友の会の一年で最初の行事です。大勢の方の参加をお待ちしています。年会費も受け付けています。

次回編集会議・理事会

2015年2月14日(第2土)
午前9:00~9:30 編集会議
9:30~11:30 理事会
5階会議室において



会員動向

新入会員
なし
12月末 194名

【元気太鼓】

2月の練習は老健ふるさとでの22日(日)10時から



カラオケクラブ

2月の集会は14日(土)午後1:30からバンバン高田店に



書道クラブ

2月の練習日は、中央病院リハビリ室で14日(土)です。



将棋倶楽部

2月の集会は、1/23(金)の集会で決めます。



《生き生きハーモニカクラブ》

2月の練習は2(木)12日と4(木)の26日午後1時からつるが1階、陽だまりで練習



リハビリ麻雀愛好会

2月6日/20日(1・3金)
PM1:00~4:00
から長野駅善光寺口ミスタードーナツビル4F雀荘天心



囲碁クラブ

2月の集会日は28日(土)PM1:30 場所は病院5階の会議室です。



歌う会ひまわり

2月の集会は1/25(日)の集会で決めます。場所はリハビリ室



2014年NPO法人長野リハビリ友の会活動記録

2014年度の友の会の活動を振り返ってみます。先ず2月22日10時から、リハビリセンターつるが1階のオアシス室で、2014年度総会が開かれました。お花見会は昨年と同じく二度に分けて、入院患者のお花見会は4/19(土)リハビリ室で開き、友の会は5/7日(水)にホテルタガワへバスハイクをして、開催しました。戸隠のリハビリ農園は5/1がAMメーデー参加の職員と一緒にPMジャガイモの植え付けで、5/17はそば蒔きを行いました。5/18南長池診療所健康祭の開会式で【元気太鼓】が演奏。7/5は飯田市へ第13回作品展見学に行きました。7/6のふるさと祭にテント店(家族会)での販売と【元気太鼓】、《生き生きハーモニカクラブ》の演奏で参加。8/23ジャガイモ収穫の収穫祭。8/30(土)は大種蒔き(日程の都合で職員が実行)。9/2・3は蒲生温泉へ一泊旅行。10/19(日)は第52回病院祭参加、《生き生きハーモニカクラブ》〈うたう会ひまわり〉が出演、【元気太鼓】が閉会式で演奏。テント店も出しました。11/1は農園秋の収穫祭でした。最後に12/3は望年会を開催しました。

2/22 総会・新年会



今年のひな壇の面々



<歌う会ひまわり>のステージ



新年会の終わりにカラオケ大会

4/19 入院患者さんのお花見会



開会前に近くの保育園へ花見に



女声合唱が大勢で披露される



最後に記念撮影を全員で

リハビリ農園始まる 5/1 ジャガイモ植え付け



景気付けに太鼓を演奏



参加した会員



ジャガ種芋を蒔いた農園

5/11 そばの種蒔き



実際の作業は職員が主



会員と職員の男同士の作業も



女子同士で作業風景も

5/7 友の会の竜王高原のホテルタガワでのお花見会



山菜狩り部隊の記念撮影



< 歌う会ひまわり > のステージ



全員で記念撮影

5/18 南長池診療所祭りに【元気太鼓】出演



祭りの横断幕



太鼓の演奏で開幕



建物内では健康チェック

7/5 第13回作品展を飯田へ見に行く



ボタンを使った珍しい作品



友の会の会員が作品を見て回る



お昼の風景

7/6 老健ふるさと祭りに参加



友の会のテント店の様子



一番最初のお客さん



[生き生きハーモニカクラブ]の演奏

8/23 ジャガイモの取り入れ



参加者がミーティングに備え座る



戸隠支部の助っ人と職員



収穫作業も後半へ

9/2・3 一泊旅行今年は太平洋側、蒲郡温泉へ



行きのバスで自己紹介



名古屋城の広場で記念撮影



徳川美術館を見学する

10/4 第2回目のおろ抜き



おろぬき作業の説明を受ける



おろぬき開始



おろぬきの終わった畝

10/12 第53回病院祭に参加



友の会テント店準備中



友の会売り物のミカンの出張販売



友の会の活動を写真で展示

11/1 秋の大収穫祭



職員が抜いた大根をトラックへ運ぶ



トラックへ積み込む



収穫祭の会場風景



ある月の理事会の様子

これら紹介した行事の外に毎月第2(土)の午前中、役員が出席して編集会議と理事会が5階会議室で開かれます。そして会報「思いはひとつ」の発行があるので、毎月後半の木曜日(大体第4)の午前中発送作業を役員がします。

役員欠員が出ると理事会で相談して手を打ちます。通院・入院患者・〈つるが〉へのリハビリ通っているみなさんたちに声を掛けて、新規の会員の募集にも役員は力を注ぎます。

最後のイベント・望年会は1頁から載せて在ります。



ある月の発送作業の様子

8〜23リハビリ農園へ大根の種蒔きは、丁度台風が来ていて予定していた日に出来なくて、他の日に職員にやってもらいました。

中央ヨーロッパ4か国 10日間 車椅子の旅 (3回目) 飯塚 英人

ミュンヘンの街

ミュンヘンはフランクフルトと並んで首都ベルリンから遠く離れて独自の道をあゆんでいるように私には見えます。

日本で言えば、ミュンヘンが大阪でフランクフルトは名古屋ではないかと思っている。

札幌オリンピックの頃「ミュンヘン・札幌・ミルウォーキー」とテレビから音が流れていたが、あれはなんだったのだろう。

ミュンヘンは1972年夏季オリンピックが開催された。記念公園で整備保存されている。

ミュンヘンに4泊したが、毎日毎晩マリエン広場に通ってレストランでビールを愛飲した。つまみはチーズかソーセージ。

マリエン広場は2キロほど続く常設の歩行者天国です。車は勿論入らず道端が一部レストラン化していた。ミュンヘンには6カ所のビール醸造所があり、それぞれが直営店を出していた。いわばオクトーバーフェストの原型で常設と考えられる。ビールの値段がコカコーラよりも安かった。

ドイツにはサッカーの1部リーグがあり(ブンデスリー

ガ)バイエルンミュンヘンは強く今期首位を走っているが、試合や応援風景を見る機会がなかったのはとても残念だった。

通貨について

中欧4カ国のうちドイツとオーストリアは欧州連合に加盟しており通貨はユーロだったがチェコとハンガリーは未加盟で通貨はそれぞれ違った。

ハンガリーはフォリント、チェコはコルナ、わずらわしく、ややこしい限りだ。

今回の旅行はクレジットカードをATMの機械に入れて現地の通貨を引き出した。便利になったものである。通貨くらいは早く統合すればいいのと思うが、それぞれのお国の事情があるのだろう。

今回はスペイン旅行に用意していたユーロが800ユーロあったのでそれを使ったが現在の為替ルートに比べて多少安く買えていると思う。

旅行全体を振り返って

一度も雨に会わず天候にも恵まれ、体調も良く計画したところは100%回り、事故や大きなトラブルもなく大満足大成功の旅行だったと思う。ただオクトーバーフェストだけは残念だった。

反省点があるとしたら

(1)折角音楽の都ウィーンに来たのだからコンサートや

リサイタルを1晩でも組み込むべきだったこと

(2)ブンデスリーガで本場のサッカーの試合をインターネットで調べ、日程に組み込んだ方がよかったこと

(3)折角郵便を書いたのに切手を貼って投函するのをすっかり忘れ投函せずに違った国に行き、結局日本にきてから日本の切手を貼り直し投函したこと。等でしょうか。

間もなく82才を迎える高齢となり臨終までの時間もそう長くなかったが、できたらもう2~3度今度のような旅行をしたいものだ。

行きたいところは山ほどある。知的興味を失わなかったら認知症や痴呆も退散するのではないかな。(終)

ぶっつけ本番車椅子の旅 飯塚 隆

2014年9月29日から10月9日まで10泊11日間、父と男2人でヨーロッパ諸国を巡ってきた。巡った国はオーストリア(ウィーン)、チェコ(プラハ)、ドイツ(ミュンヘン)、ウィーンからは隣国のハンガリー(ブタペスト)、ミュンヘンからは再びオーストリア国内のザルツブルグにも足を伸ばした。旅行記は父にゆづり、私は、ツアーガイドと介護の仕事10割の覚悟で同伴した息子兼介護者としての立場から感想を記したい。

旅は完全手作りで、ウィーンとプラハのホテルの予約をHISにお願いした他は、航空券の手配から列車のチケット購入まで全て自分たちで行った。

より正確にいうと、父がどの都市に何日滞在して何を見るかを決め、自分は英語でインターネットを利用して航空券を手配して、列車の運行状況を調べた。現地でも駅のみどりの窓口のようところで切符を購入した。

購入の都度1名は車椅子であることを伝えた。利用した交通機関は飛行機、列車、地下鉄、タクシー、市内観光バス、そして馬車。日本では乗らないような乗り物にも乗った。

ヨーロッパの街中を走るトラム(路面電車)にも乗ってみたかったが、機会がなかった。乗り物に乗らない時は、ヨーロッパの石畳の道を車椅子を押した。丘の上から坂道を降り、橋を渡った。

都市間の移動は列車で行ったがこれは楽しかった。ヨーロッパの列車はプラットフォームから2段ほど上がって



車両に乗り込む構造になっているが、新しい列車は中から電動リフトが出てきて車椅子ごと列車に乗せてくれる。電動リフトがない列車の場合は、恰幅の良い駅のスタッフ2名がやってきて油圧式のリフトで車椅子を持ち上げてくれる。とても頼もしい。

実際に体験することで日本とヨーロッパのサポート方法の違いを感ずる。ヨーロッパ

ベタペストに向かうウィーン駅

オクトーバーフェストのシンボルを首に掛けて

色とりどりのチーズ売り場



のサポートは、連携する部分もあるが、その場で人の関与が大きいように感ずる。

どちらが優れているとかではなく、それぞれ特徴があることだ。

ただ予定していた列車が遅れると、来るはずのスタッフが来てくれているか、改めて確認しなければならないこともある。

何しろ初めての駅で、事務室を探し、列車が発

次にマネージャーがやって来て改めて「けがはないか、お父さんはびっくりしただろう、果物を持ってこようか？ 壊したことは心配しないでもいい、修理代もいらぬ」ととても親切である。ヒルトン・プラハ・オールドタウンというホテルであった。

その他、ブダペストからウィーンに向かう列車が機関車の故障で2時間立ち往生したり(これは父



プラハのタクシー運転手と

車するプラットフォームを確認し、サポートスタッフが来てくれることを念を押して英語で確かめる。そう言えば、どの駅でも列車や地下鉄に乗る際は、改札がなかった。

一度列車に乗ってしまえば、後は車窓からヨーロッパの街並みや牧場の景色を見ながら移動するだけである。ウィーンからプラハに向かうときは予約席がコンパートメントで、父と2人で6人掛けの席を独占してワインを飲んでいた。ワインが無ければ食堂車にビールを買いに行くこともできる。とても楽しい。父はにこにこしている。



1リットルのジョッキ(ミュンヘン)

のせいではない)、帰りの飛行機のトイレが客席から1フロアに降りなければならない構造になっていたり、想定外のこともあったが、無事に帰国することができた。

ミュンヘンのオクトーバ・フェスティバル(ビール祭り)はものすごい人出で、結局ビールは飲まずに、ビールに群がる群衆を見てホテルに戻った。

各国で大勢の人たちから手を貸そうと声をかけられた。父と一緒に、何度もサンキュー、ダンケシェーンと繰り返した。

自分も頑張ったが、父も頑張った。行き帰りの飛行機の座席までの歩行、教会の入り口の階段、駅の階段、市内観光バス

の2階席までの階段、馬車の座席への乗り込み。エレベーターがあるところは極力利用したが、階段を上り下りしなければならぬ場面も何度もあった。レストランの入り口では、店のスタッフが父を車椅子ごと持ち上げて出入りさせてくれた。

行く先々で、父と二人でその土地のビールを飲んで料理を楽しんだ。

ブダペストで値段交渉をしながら市内を案内してくれたタクシー運転手、写真を撮るといって、店のスタッフがみんな集ってきたビアホール。

車窓から見た空と草原。振り返ると自分も3割ぐらいは観光を楽しめただろうか。

なかなか腰を上げることができずにいた自分を海外まで連れて行ってくれた父に感謝する。

しかし、もう少し音をたてずに食事をしてくれたら、自分の観光割合も5割ぐらにはなったのではないだろうか。

(完)



羽田空港(空港職員と)

隆の友人と会食(ウィーンのレストラン)



ビールとワインの本場で父も自分も当然飲まずにはいられない。父は、ミュンヘンでは1Lのジョッキでビールを楽しみ(もちろん自分も飲んだ)、ザルツブルグのホテル・ザッハーのカフェでも名物のザッハ・トルテは食べずにビールを飲んでた。乾杯また乾杯である。

車椅子の上とはいえ、体も普段より動かしているの、生理活動も活発になる。

飛行機の中、列車、街中、あらゆる場所でトイレを探した。店でトイレに行こうとすると、手摺のない階段を地下まで降りなければならず、結局ホテルの部屋まで戻って用を足したこともあった。

そのホテルでは、洗面所で体勢を崩してガラスの棚に体重をかけたところ、棚を壊してしまった。ホテルのフロントに伝えたところ、まずクリーニング・スタッフが来て、「けがはないか」と訊く(幸いけがはなかった)。そしてガラスの破片をきれいに掃除機で吸い取ってくれた。